

1 市政運営と平成31年度予算編成

- (1) 市民第一、現場第一、行動第一を基本理念としてきた市政運営の総括と今後の想いを伺う。
- (2) 平成31年度予算の基本方針、重点目標、優先施策を伺う。
- (3) 財政運営
  - ① 経常収支比率の健全化目標は87%以下としているが、平成31年度の見込みはどうか。目標達成のためにどのような取り組みをしているのか伺う。
  - ② 平成31年度は予定された大型事業等の取り組みがある中、将来、市の発展に繋がる事業については、適正な市債残高を考慮しながらも積極的な事業展開を望むが、見解を伺う。
  - ③ 平成31年10月から消費税率が上がる予定だが、交付金、歳入、歳出等財政への影響をどう捉えているのか伺う。
- (4) 組織体制
  - ① 職員体制は、平成21年度1,131人、平成25年度1,037人、平成29年度959人と着実に減少している。平成31年度の職員数の見込みと適正職員数をどのように考えているのか伺う。また、年齢構成バランス、男女構成比率、正規、非正規の職員バランスについて伺う。
  - ② 平成31年度の組織体制の見直し予定を伺う。

## 2 防災対策

### (1) 台風24号を振り返って

- ① 各地に被害をもたらし、ここ磐田市においても、人的被害5件、物的被害265件、停電被害は約63,500件と大多数発生し、多くの教訓を残した。今回の対応について、どのようなことが評価でき、また課題に上がり、今後に生かしていくのか。その対応や課題に対する検証の取り組み状況も併せて伺う。
- ② 市庁舎、支所、消防署、防災センター、磐田市立総合病院などライフラインに関わる施設における停電対応の詳細を伺う。また大規模停電時の想定やこれまでの訓練の実施状況や防災計画への反映について見解を伺う。
- ③ 要配慮者、在宅患者、障がい者等、配慮を要する方や民間医療機関、福祉施設等における被災状況と、市の情報収集の対応を伺う。また今後の課題と対策について伺う。
- ④ 民間事業者の中には、汲み上げる圧送ポンプ用の自家発電対応がされていないところがあった。また簡易水道にも一部水道の供給がされなかったエリアがあった。こうした民間事業者や水道管理者に対して、停電等災害に備えるための対策を啓発すべきと考えるが見解を伺う。
- ⑤ 水位計や排水機場などの停電による影響や、課題と今後への取り組みを伺う。
- ⑥ 災害が予想される時、避難に時間を要する人が早めに避難を開始するタイミングであることを強調するため、平成29年1月から「避難準備情報」を「避難準備・高齢者等避難開始」に変更したが、意味を正しく理解している市民は少ないと感じる。この課題についての現況と今後の対策を伺う。また、現在の指定緊急避難場所は11ヶ所であるが見直しの検討はされていないか伺う。
- ⑦ 各自治会が自主的に公会堂等を避難所として開放したり、携帯の充電などしたりして、共助として取り組んだ良い事例も耳にしたが、良い事例と、市と自治会等の共有方法を伺う。

- ⑧ いわたホッとラインは情報収集の有力な手段であると再認識し、登録者の拡大推進を一層図ることが大切と考える。この2カ月の登録者数の推移と今後の登録拡大策を伺う。また市民に届ける他の情報発信手段の検討状況を伺う。
- ⑨ 今回の台風では、農林水産業被害が多く、特にハウス、温室等の農業施設や塩害等による農作物への被害が出ている。国、県、農協の支援策が示されているが、農林水産業被害の状況と市としての支援策を伺う。
- ⑩ 今回の台風による遠州灘沿岸の防潮堤損壊の状況と対応策、海岸の侵食対策、県や国との連携や地元対応の状況を伺う。
- (2) 海岸防潮堤の整備進捗
- 防潮堤の早期完成が望まれている。現在概略設計やシミュレーションを進めていると認識しているが、その現状と懸案事項や県との調整事項を伺う。また枯損していない松の区間への対応や自転車道整備の考え方についての協議状況の詳細も伺う。

### 3 地域づくり

(1) 地域づくり協議会

地域づくり協議会に対し、一括交付金が交付される中、各地域で活動の見直し等がされ、この制度の理解が進んでいると考えるが全体のビジョンと現在までの成果と課題を伺う。

(2) 支所と交流センター

支所機能の見直しや支所と交流センターの関係について検討されるのか伺う。

(3) 高齢化対策

老人クラブ（シニアクラブ）、ふれあいサロン等、地域のシニア世代が活躍できる団体の課題と活性化策をどのように考えているか伺う。

(4) 新たな段階を迎える多文化共生について

政府が外国人労働者受入れ拡大の方向を示したが、本市でも外国人を孤立させることなく、今まで以上に社会に溶け込んでもらうための仕組みが重要であり、行政、企業、商工会議所等の各種団体との協働が必要と考えるが見解を伺う。

#### 4 健康・福祉・医療

(1) 地域共生社会の構築・実現に向けて

① 本市は、第8次高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画のなかで、「やさしさ ふれあい 支え合いのまちづくり」を基本理念に、地域住民がお互いに支え合い、全ての人が、いつまでも可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる「地域共生社会」の実現を目指している。そこで、地域における共生社会の推進状況と、そのための仕組みづくりをこれまでどう進めてきたか伺う。

② 子どもから高齢者・障がい者まで、支援を必要とする人を切れ目なく地域全体で支える地域共生社会の実現に向けては、縦割りでない支援体制が必要になってくると考える。地域共生社会推進のための市の体制と仕組みを伺う。

③ 地域共生社会の実現のため、共生型サービスの推進は大きな前進のきっかけになりうると考える。県と連携して進めてきた「ふじの国型福祉サービス」の課題と30年度より新しく始まった共生型サービスの市内事業者の実施状況と市の見解を伺う。

(2) 高齢者福祉の充実について

① 地域包括ケアシステムの推進では、各自治体により進め方、取り組みにも特長が見られている。磐田市として、どのような地域包括ケアシステムを目指しているのか見解を伺う。

② 第2次総合計画の中で、住み慣れた地域で暮らすための支援の充実を進めるため、地域包括支援センターの機能強化を図るとされている。

どのように機能強化を図るのか詳細を伺う。

- ③ 認知症の方が増える中、その対応が急務である。認知症を増やさない取り組みへの評価を伺う。また認知症施策の中で、認知症ケアパス・物忘れ相談連絡票の普及を図るとされているが詳細を伺う。

### (3) 健康づくりの推進

- ① 磐田市総合計画・健幸いわた21の中で、「子どもから大人まで」ライフステージに応じた健康づくりを進めることとされている。ライフステージ別の具体的施策について詳細と課題を伺う。
- ② 健康寿命延伸のための生活習慣病予防の取り組みについて、具体的な内容を伺う。また、生活習慣病予防においては、運動の重要性を感じる場所であるが、「スポーツのまち磐田」としても壮中年期の運動施策の推進の必要性を感じるが見解を伺う。
- ③ 寒くなると風邪やインフルエンザが流行し、休日夜間の医療ニーズが高くなる。磐田市の一次救急を担う急患センターは開設から5年が経過した。急患センターの現状と成果、課題を伺う。

### (4) 障がい者雇用・就労の促進

現在、多くの自治体において、障がいのある人にとって必ずしも就労の機会が確保されているとは言えない状況である。現在の、磐田市における障がい者就労の状況と現状に対する認識を伺うと共に、一般就労・福祉就労それぞれの課題と、今後の推進施策を伺う。

## 5 教育

### (1) 教育環境づくり

- ① 小中学校の児童・生徒において問題行動件数や不登校児童生徒数が依然として多い状況の中で、その対応にあたるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置状況と課題と対策を伺う。
- ② 本市の外国人児童生徒数は平成23年の303人を境に増加に転じ、本年度の調査では日本語の指導が必要な外国人児童生徒が450人と

なっている。これらの外国人児童生徒への対応策を伺う。

- ③ 小学校のLD（学習障害）等通級指導教室は、現在、磐田中部小学校に2教室、豊田北部小学校に1教室設置し、小学校1年生から6年生児童が通級している。LD等通級に係るニーズは年々高まり待機児童が生じていると聞くが、待機児童の状況と今後の対応策を伺う。
- ④ 教師の多忙化に対応するため、地域人材や教師OBを活用する考えはないか伺う。

## (2) 新学習指導要領への移行対応

- ① 市の英語教育の目標には、中学校卒業時には簡単な英会話ができるようにするとなっている。小学校では、3・4年生で外国語活動、5・6年生で外国語として学んでいる。現状ではどのような課題が生じているか伺う。
- ② 小学校は、平成30年度より新学習指導要領で特別の教科道徳が先行実施となった。中学校は平成31年度から特別の教科道徳が先行実施となる。小学校・中学校それぞれの対応状況と課題について伺う。
- ③ 平成32年度から小学校で実施されるプログラミング教育について、その目的と実施方法について伺う。また、導入背景は理解するが、教師への負担等課題はないのか伺う。

## (3) スマホ・ネット依存対策

- ① 小中学生のスマホ・ネットの使用の課題と対策を伺う。また、子どものスマホ・ネットの使用ルールを定めた磐田ルールの実施状況と評価を伺う。
- ② 小中学校で定めた、ノーテレビ、ノーゲームデーの実施状況と評価と課題を伺う。

## 6 子育て・若者支援

### (1) 子育て

- ① 待機児童の状況と保育需要の今後の見込みを伺う。
- ② 小規模保育所、企業主導型保育所の実態と市との連携、保育卒を増やす取り組みについて、0～2歳卒の定員を増やすことが求められているが対策を伺う。また、小規模保育事業や企業主導型保育事業の支援策をどのように進めているか伺う。

### (2) いじめ、不登校対策

- ① いじめ、不登校は教育問題であり社会問題でもある。いじめ、不登校の現況と課題と対策を伺う。また効果を上げた事例があれば伺う。
- ② いじめは学校と家庭だけでは解決できないと考える。地域の人や防犯・交通安全ボランティアの方に「子ども見守り委員」になってもらい、特に朝夕の登下校時の見守り・声かけからいじめを減らすことができるかと考えるが見解を伺う。いじめをなくす運動を各地域で取り組めないか伺う。

### (3) 子ども・若者の相談センター

子ども・若者のあらゆる相談に対応する、子ども・若者の相談センター設置に向けた考えを伺う。

### (4) 貧困対策

子育て世帯の生活に関する実態調査報告書の公表がされ、本市での貧困世帯の実態が明らかになった。本市における子どもの貧困対策のこれからの展開や推進体制を伺う。

### (5) 婚活

市の婚活イベントについての実績と課題、これからの取り組みを伺う。また官民の連携状況を伺う。

### (6) 安全で魅力ある公園づくり

- ① 公園は各年代が使用するのでルールが必要なのは理解できるが、子どもたちがのびのび遊ぶために、例えばボール遊び等できる場所をつくることも必要と思われるが、特色ある公園づくりは考えられないか見解を伺う。

- ② ある市では、市内にある小規模公園や活用されていない空き地で、やってみたい企画（アイデア）を市民から出してもらい、市民自身が実現することを支援している。この事案について見解を伺う。
- ③ 遊具、トイレ、フェンス、樹木等施設の安全管理の状況と公園の老朽化への対応を伺う。

#### (7) 読書推進

- ① 子どもの読書推進の取り組み状況と課題を伺う。また、「ひと・ほんの庭 にこっと」の、これまでの利用状況と市民の反応を伺う。
- ② 読書通帳を作って成果をあげている市町がある。当市で取り組むことについて見解を伺う。また、子どものみならず、市民の読書活動の励みになると考えるが見解を伺う。

## 7 産業振興

#### (1) 市内企業支援について

- ① 市内中小企業の発展は、活力ある地域社会の実現に寄与すると考える。磐田市中小企業及び小規模企業振興条例には、市内企業に受注の機会を増やす内容がある。市事業における発注の考え方を伺う。
- ② 中小企業において事業承継が課題となっているが、課題の把握と支援策等考えを伺う。
- ③ 加速しだしたEVシフトやAIと自動車産業との結びつきなど、新分野参入に意欲ある市内業者の動向をどのように把握し、その支援をどのように考えているのかを伺う。

#### (2) 磐田の強みを生かしたまちづくり

##### ① スポーツ産業振興

スポーツ産業振興として、スポーツ合宿、観戦ツアー、全国大会・国際大会誘致等の取り組みの状況と課題を伺う。

##### ② 「空の活用」

功績を残した本市の偉人の一人に2019年でちょうど100年を迎える福長飛行場で、日本初ともいわれる民間飛行機を飛ばした福長浅雄がいる。本市には鳥人幸吉伝説もあり、飛行機や空との縁が深い。ま



ちづくりのヒントの一つに「空の活用」も考えられるが見解を伺う。

### (3) 企業誘致

- ① 全天候型の企業を有する市になるためには、新たな企業誘致の土地が必要になると考えるが、開発候補地の検討や、進出が決定していない既存の工業団地へのさらなる環境整備の検討に対する見解を伺う。
- ② 企業誘致は、本市を知ってもらい、特徴を理解してもらうことだと考える。市長のトップセールスや、本市や、本市企業の、首都圏や中京圏への企業とのつながりづくりに対する、あらたな展開や課題を伺う。

### (4) 農業振興

- ① 本市を代表する農産物は、海老芋、白ねぎ、温室メロン、茶等であるが、年々生産量が減少している。産地を守ることは大切と考える。生産量維持・拡大策をどう考えているのか伺う。対策の一つとして、農業次世代人材投資資金制度活用による担い手育成策が有効と考えるが現状と課題を伺う。優良な経営体での実習が効果的と考えるが、受け入れ経営体への支援等考えられないか伺う。
- ② 農業においても事業承継の取り組みが必要と考える。後継者のいない経営体の施設、設備、機械を担い手が有効活用する仕組みづくりの検討について伺う。
- ③ 担い手への農地集積が進んでいるが、課題として、担い手は借りた農地面積部分は耕作するが、借りた農地の周囲1～2mの除草管理をしないケースがあり課題となっている。これまでは、耕作者が慣例として自主的に除草管理をしていた。この課題について対応策を伺う。
- ④ 農地集積による大規模農業が進められているが、集積できない農地は、小規模・家族農業に守ってもらう必要がある。農業に若者だけでなく定年退職者や高齢者や市民が関わることで健康と生きがいとコミュニティづくりになる。また、直売所出荷者拡大にも繋がる。定年退職者や高齢者等市民がさらに農業に関わりやすくする仕組みづくりについて見解を伺う。

## 8 都市基盤の整備と快適な生活環境確保

### (1) J R新駅周辺のまちづくり

- ① 新駅周辺のまちづくりについては、多くの市民が期待している。都市機能の誘導や賑わいづくりについての方向性と、現時点での状況や課題を伺う。
- ② これから決定する駅名もまちづくりの大きな要素となる。その決定方法や時期、進捗状況を伺う。

### (2) まちづくり・にぎわいづくり

- ① 磐田駅周辺の活性化には、行政、商工会議所、商店街組合、企業などへのアドバイザーやコーディネーターの活用も必要と考えるが見解を伺う。
- ② まちづくりやにぎわいづくりには、市内にある静岡産業大学・農林大学校・専門学校・地域の若者たちの力と発想力が必要と思われるが見解を伺う。
- ③ 市民文化会館閉館の検討状況と今後の方向性を伺う。

### (3) 下水道整備

下水道の平成17年度の整備面積は2,389ha、普及率65.2%、平成29年度の整備面積は3,212ha、普及率83.5%となっている。今後の普及率の目標と整備推進の課題と考え方を伺う。